

牛乳でスマイルプロジェクトのご案内

令和 5 年 1 月
農林水産省畜産局

- 農林水産省と（一社）Jミルクは、牛乳乳製品の消費を拡大するため、2022年6月に「牛乳でスマイルプロジェクト」を立ち上げました。
- 本プロジェクトでは、企業・団体・自治体など官民から幅広い参加者（メンバー）を得て、
 - ① 各メンバーが独自に販促・PR活動を行うことや、
 - ② メンバー同士が新たに共同でキャンペーン等を行うことを促すことで、消費拡大の輪を広げていきます。
- また、牛乳乳製品が国民の健康的な食生活を支えていることや、酪農が地域の資源循環に貢献していることなどについて、メンバーに伝え、共感してもらうことで、メンバー自身による情報発信が行われることを目指します。

○ 共通ロゴマーク



牛乳乳製品を食事に取り入れることで、笑顔になってほしいというメッセージを込めました。

○ 連携した取組のイメージ

- ✓ 乳業 × レシピサイト
- ✓ 乳業 × 温泉・銭湯・サウナ
- ✓ 小売 × 食品メーカー 等



農水大臣によるプロジェクト発表会もBUZZMAFFで発信中！



16

○ 当面の活動

- ✓ 当面、年末年始の消費拡大を目標に活動。
- ✓ 農水省からの情報提供や、参加企業等の交流を目的とした会議を不定期に開催。

○ メンバーに登録すると？

- ✓ 共通ロゴマークを無料で使えます。
- ✓ 農水省ウェブサイトでメンバーとして紹介します。（次ページをご覧ください）

○ 登録はこちら



問合せ先（事務局）：
農林水産省牛乳乳製品課
gyunyu_syouhi@maff.go.jp

毎日牛乳をモ〜1杯
育ち盛りは、モ〜1パック

牛乳をモ〜1杯



BUZZ MAFF
農業遺産で太鼓たたき隊 吉村



BUZZ MAFF
棚田めぐりダーツの旅 久保



牛乳乳製品課 下村

BUZZ MAFF
穂Click 大島



牛乳乳製品課 大平



牛乳乳製品課 東



酪農ガール 松本七海さん

プラスワン×BUZZ
プロジェクト MAFF

© 2019 農林水産省

緊急事態宣言の対象地域拡大によって、
学校給食や外食産業における牛乳や乳製品の消費
の更なる減少が懸念されています。

農林水産省は、酪農家を支えるため、牛乳やヨー
グルトを普段より1本多く消費することを推進する
「プラスワンプロジェクト」を2020年4月21日
より開始しました。



※ 酪農ガールの松本さん以外は農林水産省職員です
◀ BUZZ MAFF はこちら

農林水産省 MAFF

なぜ生乳余りが問題となっているのか①

<例年のサイクル>

- 生乳^{注1}は、例年、春先と年末年始に需給が緩和^{注2}しますが、ウシは毎日お乳を搾らないと病気になってしまうため、搾る量を増減することはできません。

注1：搾ったまま（殺菌等をする前）の乳

注2：需要より供給が多く、余りがちになること

- 春先は、ウシにとっては快適な気温で生乳生産が好調になる（図1）一方、ヒトはあまり喉が乾かないことや春休み・GWで学校給食がないため消費が少なくなり、生乳需給が緩和します（図2）。
- 年末年始は、生乳生産は多くありませんが（図1）、冬休みで学校給食がない上、お正月にはあまり家庭で牛乳が飲まれないため、消費量が極めて低水準となり（図2）、生乳需給が緩和します。

図1 生乳生産量の季節変動

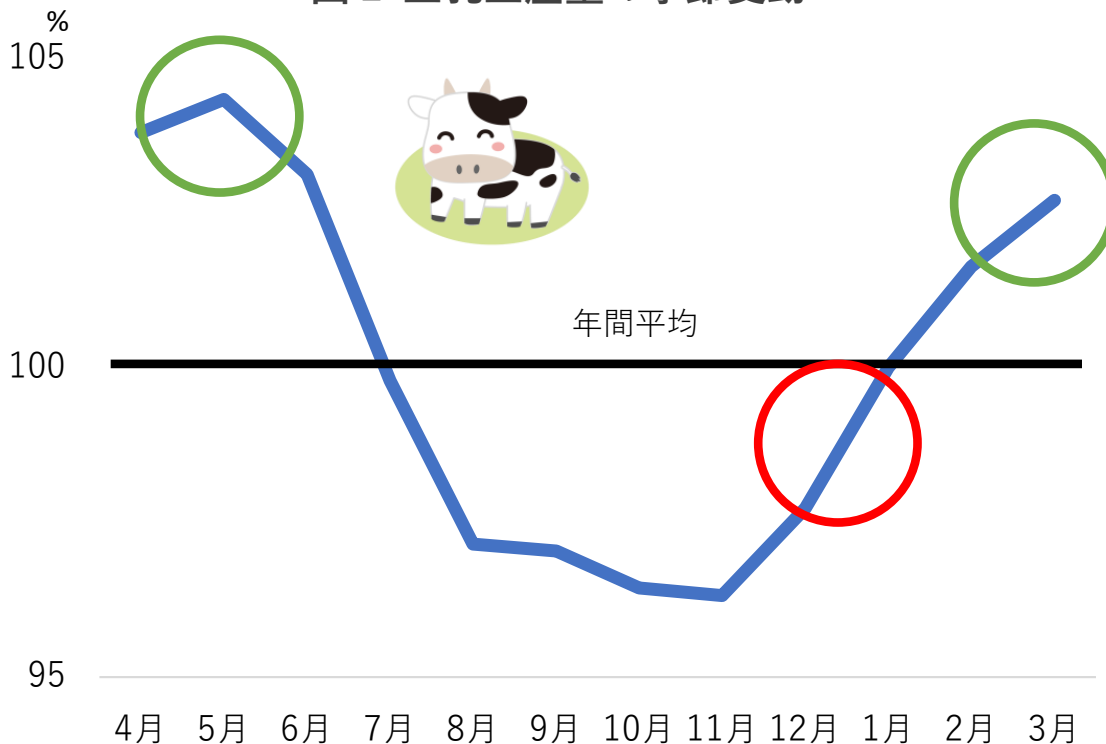


図2 飲用牛乳消費量の季節変動



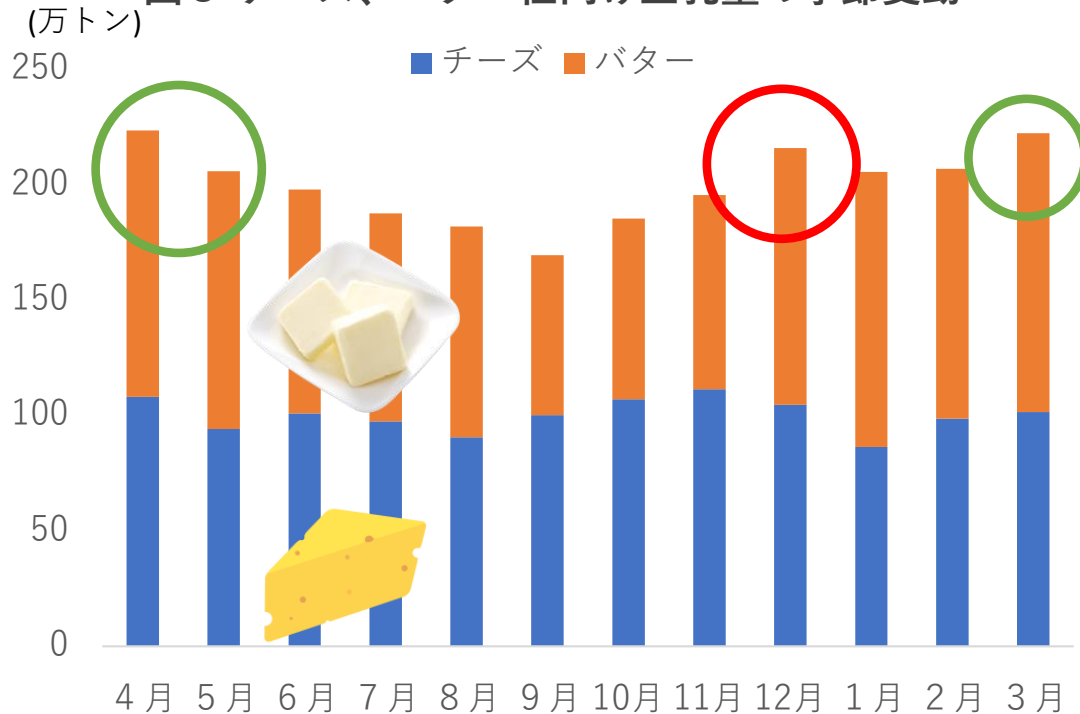
なぜ生乳余りが問題となっているのか②

- このため、乳業メーカーでは、年末年始と春先に賞味期限の長いバターやチーズを多めにつくることで、生乳を有効活用しています（図3）。

<近年の状況>

- バター不足以降取り組んできた増頭対策が功を奏し、生乳生産が大幅に増えていることや（図4）、コロナ禍による業務用需要の停滞が重なり、バター等を作る工場の受入可能量を上回って生乳が供給されるおそれ（処理不可能乳の発生）が懸念されています。

図3 チーズ、バター仕向け生乳量の季節変動



出典：牛乳乳製品統計を基に牛乳乳製品課作成
注：チーズは直接消費用を除く。

図4 近年の生乳生産量の推移

